

「熊本の戦争遺産 平和のバトン 未来へ」

9/18版

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷和生

1 はじめに ～戦後79年の諸相～

- 戦後世代としての「私の視点」～近現代考古学・戦跡考古学との出会い～
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員、空襲・戦跡九州ネットワーク事務局長
- 平和憲法を活かす熊本県民の会、菊池恵楓園ボランティアガイド、一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会

2 熊本の戦争遺跡・遺産

※『くまもとの戦争遺産ガイドマップ』

(1) 戦争遺跡とは

- 全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「319」件 2021年10月2日現在
- 熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」
- くまもとの戦争遺産』内の一覧表には「249件」を精査し記載
- 熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件



宇城市の戦争遺跡「永代橋梁」

(2) 西南戦争期の指定等

西南戦争遺跡群（国指定、熊本市・玉東町）、明德官軍墓地（熊本市）、七本官軍墓地（熊本市）、花岡山陸軍埋葬地（熊本市）、旧輜重兵六聯隊衛兵所（熊本市）、有栖川の宮御督戦の地（玉東町）、篠原国幹戦傷の地（玉東町）、城の原官軍墓地（南関町）、肥猪町官軍墓地（南関町）、陣内官軍墓地（水俣市）、下岩官軍墓地（和水町）、高瀬官軍墓地（玉名市）、田浦官軍墓地（芦北町）、峰崎官軍墓地（芦北町）の計14件

(3) 太平洋戦争期の指定等

「花房飛行場給水塔」（陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定有形文化財）、「永山の掩体壕」（陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物）の2件。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に国登録文化財となる予定である。また、東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所変電所は、荒尾市が所蔵・管理している。



菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」菊池飛行場

(4) 熊本の「戦争の歴史」をたどる

～熊本に残された戦争の傷跡「七大特徴」～

- ①軍都熊本市の軍事施設 ※平和継承リーフレット『軍都熊本の残像』
～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

- ②九州で三番目に多い陸海軍飛行場

※平和継承リーフレット『大浜飛行場 II』『菊池の空から II』
～正規飛行場、本土決戦に向けての特攻秘匿飛行場の実相～

- ③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産。小倉造兵廠へ～

- 近代化遺産の「光」と「影」
- 陸軍毒ガス弾・炸薬の生産に関わる「曾根製造所」加害の歴史



④三菱重工業熊本航空機製作所と学校工場・地下工場

～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～

※平和継承リーフレット『健軍飛行場』『進駐軍の見た熊本』『進駐軍の見た熊本 II』

⑤本土決戦に向けての天草地区砲台、震洋等の特攻艇基地と兵站基地としての人吉地区の飛行場・地下工場・地下壕群

⑤-1

- 天草地区海峡封鎖の為の「平射海面砲台」と海軍特攻艇「震洋基地」、戦後接収写真
- 八代海での陸軍特攻艇「マルレ艇基地」の実態把握、佐敷国民学校への逗留

⑤-2

- 錦町立「人吉海軍航空基地資料館 2018（平成30年）年8月1日開館
～山の中の海軍の町にしき ひみつ基地ミュージアム」
- 意見書提示（同年9月）回答なし。新たな「靖国史観」への危惧
- 戦争や戦争遺跡を美化したり、集客目的に利用する「戦跡の観光地化・商品化」「民間事業者委託」「歴史事実の歪曲・矮小化」ではないか。展示説明・解説は果たして十分か
- 集客のための実寸レプリカ「海軍九三式中等練習機」、全国各地の「プチ 大和ミュージアム」
- 何でもありの「地域づくり」、文化財活用の誤用、行政がからむ「プチ 遊就館」
- 戦跡ツアー「学ぶ旅」観光のあり方、「戦争遺跡の学び」の本質とは
- 十五年戦争につながった「満州戦蹟保存運動」の反省から学ぶ！

⑥県内各地に残る空襲・戦災の「被害の歴史」

⑦朝鮮人や中国人、連合軍俘虜労働者、敵機捕獲搭乗員への「加害の歴史」

- 通称「田浦捕虜収容所」。使役企業は「東海電極株式会社 田浦工場」で、「福岡俘虜収容所第六派遣所」が設置
- 捕虜収容所は、三回移転し、最後は工場から南橋を渡り海岸際に位置する。現地には建物基礎・井戸等が現存
- 内訳は、102名（米2・英97・NZ3名）、死亡3名
- 日本国は、「戦時中の労働力不足」を補うため、約37,000人を、全国130箇所で使用。死者は約3,500人
- 「俘虜待遇条約（ジュネーブ条約）準用での「違反行為」
- 敗戦時での暴動抑止のため大牟田「福岡俘虜第二十五分所」へ6月30日に移動。使役企業は、電気化学工業株式会社大牟田工場



田浦捕虜収容所での1944年12月日本軍プロパガンダ「クリスマスイベント」

3 熊本での空襲被害と加害実相

※平和継承リーフ『M76焼夷弾と熊本空襲』『空襲下の熊本』

(1) 空襲下の熊本 熊本県下への空襲全史、各要件での再構成が必要

(2) 第1回 熊本大空襲

- 昭和20年7月1日深夜、B29戦略爆撃機154機・夜間焼夷弾攻撃
 - 全国中小都市への戦略爆撃
- 熊本市は全国160中小都市の16番目の人口数

(3) 第2回 熊本大空襲

- 昭和20年8月10日午前 B24・B25・A20・A26・P47・P38
- 継続した都市空襲としてだけではなく、沖縄移駐の陸軍航空群による「九州上陸作戦（オリンピック作戦）」前哨戦の位置づけ

①M76落下傘付き500ポンド大型焼夷弾

- ナパーム弾を含め多様な焼夷弾構成、徹底した攻撃
- ヒロシマ・ナガサキ「原爆」投下で帰結する爆撃思想

②眼下の熊本市街地、AIと戦時証言によるカラー化 “継承”

- 沖縄移駐の第5航空団第3爆撃群団の各爆撃機による攻撃
- 空襲に関わる「記憶の解凍」、証言の掘り起こしとその検証



1945年8月10日第2回熊本大空襲、AIと証言でのカラー化

(4) 長崎への原爆投下と熊本

- 原爆投下16地点と候補地の一つが「熊本」、「3マイル候補地」
- 小倉への原爆投下の事実 これまでの「前日の八幡空襲煙幕」と新たな「日本側対空砲火」「芦屋基地防空隊」事実
- 本土決戦での九州各都市への原爆投下計画、模擬原爆（パンキン弾）の投下訓練
- 県内小学校での修学旅行「長崎平和学習の学び」の質を高め、熊本に近づける。

(5) 紙の爆弾「伝単（でんたん）」

- 昭和20年8月、熊本市・天草他「伝単五種」を投下
- 日本国民に告ぐ伝単、無条件降伏の意義伝単、ポツダム宣言伝単、トルーマン伝単 他 **約50万枚**
- 昭和二十年八月十二日熊本日日新聞に「熊本市に紙の爆弾傳単の内容を喋れば敵罰敵の思想謀略」記事が掲載され。熊本市内での伝単投下を、8月10日「第2回熊本大空襲」当日が「初投下」とであると報じている。
- 戦場及び占領地、敵国（内地・銃後）への「情報戦」



本渡投下のポツダム宣言伝単

(6) 地方のまち「松橋空襲」と今も続く「ウクライナ戦争」
 ※平和継承リーフ『松橋空襲』

①「松橋空襲とは」何か

- 熊本での「地方のまちへの空襲」を改めて実相を知る!
- 「川尻・緑川空襲と宇土空襲」を含め、鉄道等「インフラ攻撃」のわかりやすい姿

②戦争遺跡・鉄道遺産「永代橋梁」

- 下部構造（躯体）は、橋脚2基・橋台2基で構成
- 上部構造は、桁連数三連の「三径間単純鋼桁（ガーダー）橋」、橋長40.74mを計測
- 九州鉄道時代の貴重な鉄道・近代化遺産であり、全体構造等の継続調査が必要
- 橋梁第一橋脚への「爆弾痕跡と機銃弾跡」の調査・測量、文化財として残し、活用する!



左：松橋駅の惨劇 昭和20年7月27日の空襲様子
 夏目信彦氏著『記憶のなかの色紙』より
 右：第1番橋脚西面の機銃弾・弾痕状況

③墜落したB25と5名の搭乗員

- 墜落機体 North American 「B-25」 Mitchells J型機
- 第5爆撃機集団 第345爆撃機群団 第498戦隊所属機：沖縄伊江島基地
- 機体型番：4-31300 機体に通称は「エアパッチ」
- 墜落日：1945年8月7日
- 墜落地：旧鏡村「氷川河口・氷川左岸」
- 墜落機搭乗員
 - 主パイロット Robert G. Neal大尉 NY Buffalo出身（後列左 ロバート・ニール）
 - サブパイロット Louis J. Winiecki, Jr大尉 NY Lancaster出身（後列右 ルイス・ウィニッキ）
 - 航法士 Richard S. Lane 大尉 NJ Ridgewood出身（前列左 リチャード・レーン）
 - 機関士 Robert W. Goulet 軍曹 NY出身（前列中 ロバート・グワレット）
 - 通信士 William Cohen軍曹 NY New York出身（前列右 ウィリアム・コーエン）



右：1945年8月7日、氷川に墜落したB25機の機長・搭乗員 古牧昭三氏提供
 左：沖縄伊江島基地から離陸するB25機 工藤洋三氏提供

④「今だから話せる」「もう話してもよからう」という戦争証言

Yahoo「未来に残す戦争の記憶」の公開の証言ビデオ

- 5分遅ければ… 分部三友さん □墜落した血まみれ… 塚本 太さん・古牧昭三さん
- 古賀昭代さん（85歳・当時国民学校4年生）の証言
 「若い米兵達は、後ろ手に縛られ引っ張られていた」「国防婦人会の約20人が、もんぺに鉢巻きを締め、薙刀を持つ姿に圧倒された」
- 塚本 太さん（82歳・当時国民学校2年生）の証言

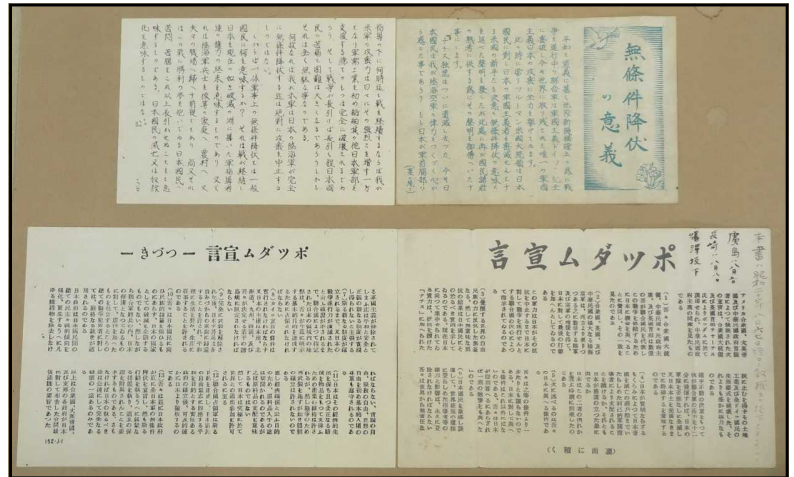
「米兵と対峙した父」「墜落時の米兵と住民」「芝口集落を歩く、5人の米兵・荷だを目撃」

(7) 西部軍第三事件、「敵機捕獲搭乗員」処刑

- 内地での捕虜飛行士は、「一般捕虜」ではなく、戦犯容疑「敵機捕獲搭乗員」
- 総数568人で、無事本国への生還者は303人
- 捕虜は熊本憲兵隊本部で取り調べを受けたのち、福岡西部軍司令部へ列車で連行される。
- 途中、荒木・筑紫駅付近で米軍機による銃撃「西鉄筑紫野駅銃撃事件」(1945年8月8日11時30分)を受け、連行中の憲兵1名が死亡する。幽閉されたのち15日に油山で処刑された。
- 1945年5月以降に西部軍司令部に収容された飛行士40~41人は、「日本人市民に対する無差別爆撃の罪」の理由で6月20日(第一事件)、8月10日(第二事件)、8月15日(第三事件)に3回にわたって処刑された。これらの事件を通称「西部軍事件」という。
- 搭乗員斬首事件裁判 (GHQ報告書第420号 再審記録第288号)
- 裁判の期間：1948年10月11日~12月29日

4 まとめ

- ウクライナ戦争、ガザ戦闘と重なる「太平洋戦争」「熊本の空襲」の姿
特別軍事作戦=満州事変、SNS=プロパガンダリーフレット、捕虜=戦時捕獲搭乗員 他
- 史実に込められた「歴史の重み」、昭和の歴史の教訓化、「新しい戦前」とは
- あらためて「加害と被害」の諸相を、県内事例から調べる！ 証言を重ねる！
- 一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」「継承者」として語り継ぐ
 - ①戦争遺跡の調査、保存、継承・活用
 - ②戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料として「国民共有の財産“文化財”」
 - ③庶民の戦時資料の調査と継承は「地域協働の平和学」
 - ④広島「被爆体験伝承者」と長崎「平和案内人」による「非当事者による語り」の展開
- 地域の特性を基にした熊本の「血」と「智」を!
- 核廃絶への「理論と感性!」、平和継承のための「戦争実相と感性!」
- 私たちひとり一人の、自分ごとの「新たな平和運動・活動」を!



□昭和二十年八月十二日 熊本日日新聞「熊本市に紙の爆弾」 ※該当部分のみトリミング
 □熊本で実際に投下された「伝単 二種」 両資料ともに右側が「現物」、左側が「複写」である。
 上段「無条件降伏の意義」伝単 下段「ポツダム宣言」伝単 熊日新聞社新聞博物館所蔵



連絡先
 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
 平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 高谷 和生
 Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
 HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/

子どもたちの見た戦争

くまもと戦跡ネット戦時資料貸出キット

戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」は、2016年熊本地震での戦時資料レスキュー活動や本会活動に協賛いただいた方々からのご提供、九州ろうきん助成事業により収集した戦時資料です。

テーマごとにパッケージした戦時資料を「無料」で貸し出します。

県内諸学校での平和学習、職域団体等での平和活動、資料館での展示・学習などに利用できます。

今回は第1弾5キットで、写真パネルも一部には付きます。



貸出キット「子どもたちの見た戦争」第1弾セット



No1 ちいちゃんセット



No2 一つの花セット



No3 軍国少年少女セット



No4 勤労働員セット



No5 金属代用品セット



・文化遺産ネットワーク

hoto-senseki.net/



貸出キット規約

- 貸出は、申込み順で「無料」です。基本、熊本県内の学校・職域団体等の限定です。
- 貸出は、玉名市立願寺の高谷（たかたに）自宅での「受取り・返却」となります。
- まずは、メールで高谷（takayanagi912@yahoo.co.jp）まで、各セットの空き状況等をお問い合わせください。併せて、授業形態や授業内容の確認もお願いします。
- 希望等の調整のため、予定日「1ヶ月前」頃までにご連絡ください。
- 実施予定日の「前10日・後10日の計21日間」貸出となります。
- 通年で貸出を行いますが、毎年度4月1日からの受付となります。
- 申請書は本会HP「<https://www.kumamoto-senseki.net/>」からダウンロードしてください。
- HP右側バナーの「戦時資料貸出キット“子どもたちの見た戦争”」で概要を確認ください。
- 本貸し出しシステムは、9月上旬より開始予定です。HPをご確認ください。

■くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークとは？

平成17年5月に「玉名荒尾の戦争遺跡をつたえるネットワーク」として活動を始め、平成26年8月に組織拡大して「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」として新たに活動を始めました。
熊本県内に所在する「戦争遺跡」に焦点をあて、その記録保存や検証、地域の文化遺産としての価値付け、後世に「戦争の記憶を語り継ぎ、平和の大切さを学ぶこと」を目的に活動しています。また戦争遺跡保存全国ネットワークや、空襲・戦災を記録する会全国連絡会議との連携で、活動の幅を全国にも拡げています。



- 高谷和生著『くまもとの戦争遺産 戦後75年平和を祈って』熊日出版
- 「第42回熊日出版文化賞大賞」「第34回地方出版文化賞最優秀賞」の受賞
- 熊本県内の戦争遺産「249件」を、精査し記載

新刊案内 くまもとの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って

熊日出版

新刊書籍のお知らせ

2020(令和2)年8月15日発行

くまもとの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って

たかたにかず お
著者：高谷和生

(くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表)

自費出版

仕様：A4判、並製本、276ページ

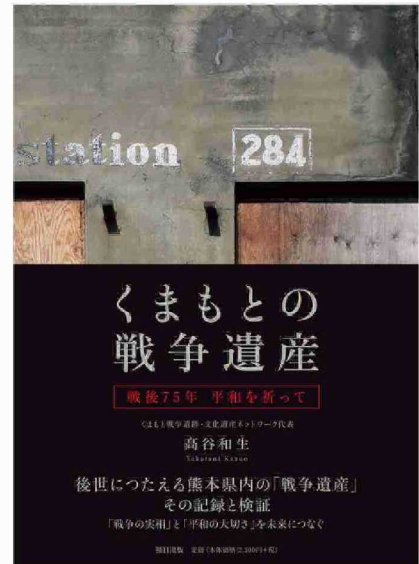
発行：高谷 和生

制作・販売：熊日出版(熊日サービス開発株式会社 出版部)

定価：本体価格2,300円+税

ISBN：978-4-908313-65-3 C0020

AMAZON、熊日出版(096)361-3274(土日祝を除く9時~17時)、熊日出版ホームページからもご注文できます。



◆内容◆

後世につたえる熊本県内の「戦争遺産」。その記録と検証

- 第1章 軍都熊本
- 第2章 旧陸海軍飛行場
- 第3章 本土決戦軍施設
- 第4章 県下の軍工場・軍需工場
- 第5章 奉安殿・奉安庫
- 第6章 慰霊碑 他
- 第7章 県下空襲・航空資料
- 第8章 連合軍捕虜収容所
- 附章
 - 1 熊本県内の戦争遺跡資料館・平和資料館・軍事資料館
 - 2 くまもと戦争遺産ガイドマップ
 - 3 くまもとの戦争遺産(戦争遺跡・遺構・遺物等)一覧
 - 4 くまもとの戦争遺産 参考文献

【著者プロフィール】

1954年熊本県玉名市生まれ。別府大学文学部史学科考古学専攻課程卒業。熊本県教育庁文化課にて埋蔵文化財発掘調査等を担当。主な文化財調査報告書として熊本県では『下山西遺跡』『柳町遺跡Ⅰ』等を、苓北町では『内田皿山窯跡』の報告がある。

その後は近代化遺産・近現代遺跡の報告として『子どもと歩く熊本の戦争遺跡 県北編・県南編』『熊本の戦争遺跡』『熊本の近代化遺産 県央編・県北編・県南編』を分筆。あさぎり町『陸軍人吉秘匿飛行場』では県内初の戦争遺跡調査報告を担当する。現在は、くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク代表。戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員。空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会共同代表。肥後考古学会幹事。